



---

# 3. 体験学習から地域志向型教育への発展

## 連携特別講義、インターンシップ、特別演習

## 中山間地域・島しょ部連携特別講義

- 「地(知)の拠点」事業の本旨に沿って、広島県内の農山漁村地域で実際に地域おこしや農水産業振興に携わっている人物からその取組実態を学ぶことによって、即戦力となる人材の育成に寄与することを旨とする。

- 生物生産学部の専門教育科目

→ 地域政策・行政(県・市町)、農商工連携、農業法人経営、農産物やサービスの開発など、オムニバス方式の講義

→ 体験学習、その事前・事後学習によって得られた興味関心をさらに深いものにしていく

## 連携特別講義の内容と成果

項目	平成26年度の講師		平成27年度の講師	
農村振興 (行政)	広島県中山間地域振興課 呉市豊町市民センター	三島史雄氏 前田義信氏	広島県中山間地域振興課 安芸太田町建設課 東広島市農林水産課	三島史雄氏 長尾航治氏 松下健司氏
6次産業化 (農業者)	ファーム・おだ(集落法人) 世羅高原農場(花き観光農園) フルーツ夢工房MUKAISHIMA おのベジ榎山農園	吉弘昌昭氏 吉宗五十鈴氏 半田文子氏 卯元幸恵氏	トムミルクファーム(酪農) 世羅高原6次産業ネットワーク フルーツ夢工房MUKAISHIMA おのベジ榎山農園	沖 正文氏 吉宗五十鈴氏 半田文子氏 卯元幸恵氏
農商工連携 (企業)	パティスリーオクモト(レモンケーキ) 株式会社サタケ(精米機メーカー)	奥本隆三氏 松本吉人氏	パティスリーオクモト(レモンケーキ) 株式会社あじかん(加工食品)	奥本隆三氏 井上淳詞氏ほか

### 受講者数

平成26年度: 19人(うち1年生14人、2年生2人、3年生0人、4年生3人)

平成27年度: 19人(うち1年生2人、2年生14人、3年生3人、4年生0人)

\*「共同セミナー」としての大学院生の受講者数が30人程度。

# 連携特別講座 講師



6月3日

沖 正文 代表取締役 (東広島市)  
有限会社 トム・ミルクファーム  
松下賢治主査 (東広島市農林水産課)



三島史雄様 広島県県庁  
中山間地域振興課 GL



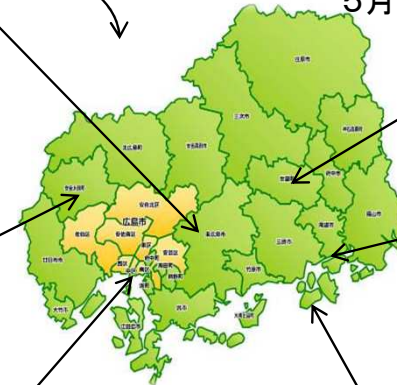
4月15日

吉宗五十鈴様 (世羅町)  
世羅高原6次産業ネットワーク  
マネージャー



5月29日

長尾航治様 5月13日  
安芸太田町役場 地域づくり行政



・半田史子様 (尾道市)  
フルーツ工房MUKAISHIMA  
・卯元幸江様 (尾道市)  
おのベジ横山農園

5月20日



5月27日

(株) あじかん (広島市)  
食品の製造・販売ひとすじに



4月22日

奥本隆三 社長 (尾道市)  
株式会社 パティスリーオクモト

## 地方創生を担う人材育成インターンシップ

- 広島県内の行政・地域等と連携して、学生が自身の将来に関連のある地域を選び、インターンシップを行う。
- インターンシップを通じて、県内の秀でた取り組みや活動を学生が主体的に学び、少しでも地域に貢献できる地域志向型人材の育成にもつなげようとする。

➡ 本年度、実施期間は8月17日(月)から9月30日(水)で、生物生産学部の学生を中心に28名が参加し、3日から6日間地域に泊まり込んで活動を行う。

➡ 「地域連携から地方創生へ」を共通のテーマとして、大学と市町・地域が連携して取組を進めている。



# 連携インターンシップのポスター

## 中山間地域・島しょ部 連携インターンシップ



「地(知)の拠点」  
連携地域に、  
インターンシップ!



インターンシップに参加して  
地域が抱える課題について考え、  
中山間地域・島しょ部の魅力を  
発見しよう!



**ステップ1  
1次産業体験**

研修先は、幸水農園、大豊農園、  
向井農園、甲山いきいき村、四季園  
におた、ヤンマーファームです。

9月は幸水梨やぶどう  
の収穫ができるんよ。

**ステップ2  
2次産業体験**

「特産品センターかめりあ」で  
お菓子や漬物の加工ができるよ!

**ステップ3  
3次産業体験**

各農園には直売所があるけど、  
収穫物の販売研修をしてみんさい。

**GOAL!**  
世羅高原を舞台とした  
グリーンツーリズムの提案

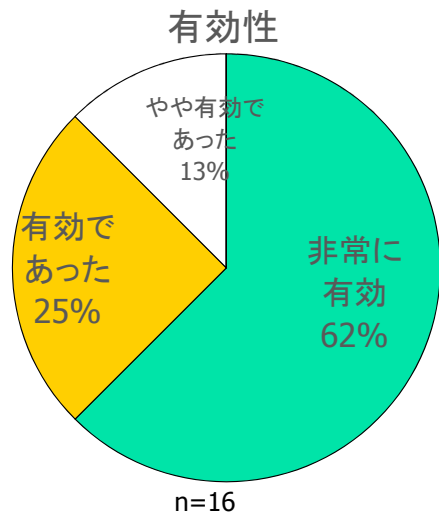
4泊5日の世羅高原6次産業体験を通じて、  
世羅でしかできない、グリーンツーリズムを  
提案してください。  
世羅高原6次産業ネットワークのメンバーと  
ワークショップ形式で自由に  
意見を交わしましょう!

秋の世羅町で  
6次産業を学べる  
インターンシップです!!

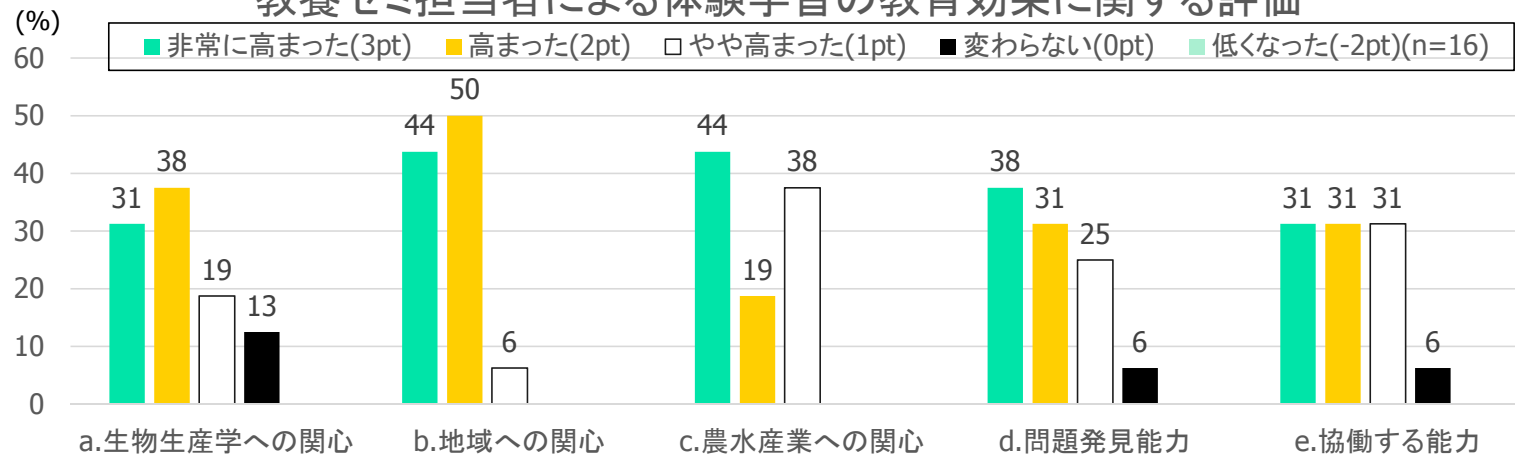


# 教員による教育効果に関する評価(主に体験学習)

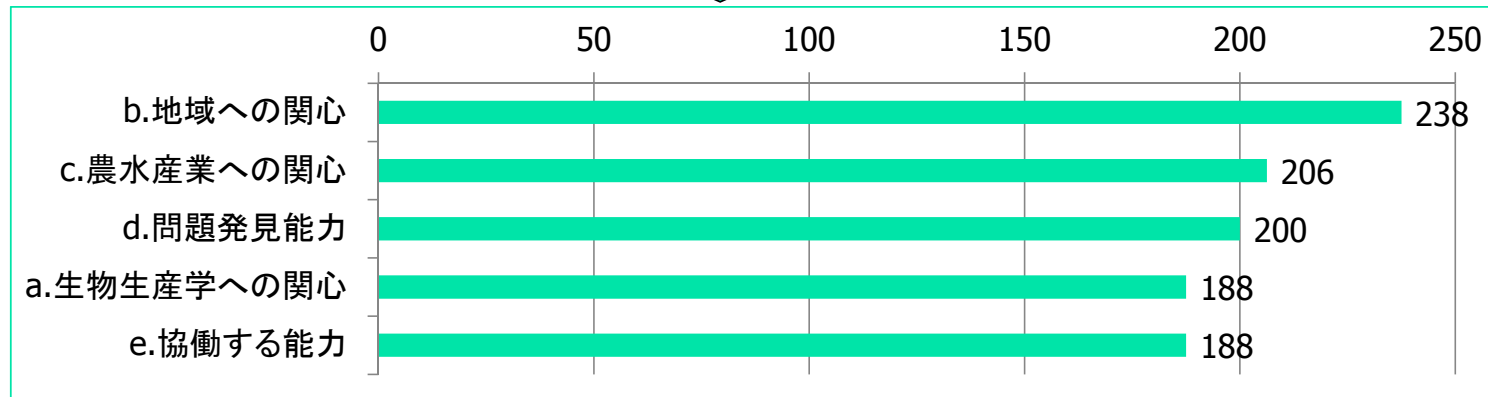
体験学習の導入による教育への有効性



教養ゼミ担当者による体験学習の教育効果に関する評価



ポイントを換算すると





## 教員による教育効果に関する評価(自由記述)

- **問題解決型**の学習に適している。
- **地域の創意工夫の姿**を間近で見られたことはプラスであろう。
- 自分の住んでいる周辺だけでなく、少し離れた山間部や島しょ部にどのような団体がどのような活動を行っているのかを、**実際の体験学習を通じて知った**ことは大きな経験になると思う。
- 体験は知識以外の力となるので、将来にどのような進路に行っても、この経験を活かして**実践から課題を考える力**につながると思います。
- 地域やグローバル社会を問わず、**課題解決能力**の向上につながる。
- 事前学習を通じて地域の様々な課題を見出し、発表の準備などで、学生自ら主体的にその問題を解決する方法などを積極的に議論していることから、教養ゼミでの体験学習は、**主体的に考え問題を解決する能力**を高めるのに効果があると思います。
- 具体的な事例に触れることで**問題意識**をもつきっかけになると思います。
- まだ入学したばかりであり、**2セメスター以降の活動に期待**したい。
- 実際に”体験する”ということはとても大事なことであると思います。これにより、一部の**(資質ある)学生は、より成長する**と思います。
- 今年の2年生は、**自ら考え行動する学生**が多いように思われる。体験学習の効果もその要因の一つではないか。

## 平成26年度入学生の2年次における 修学意欲の変化

- ① 教養ゼミ体験学習への教務補佐員(TA)としての参加
  - 2年生10人が参加し、うち8人は複数回参加。
- ② 中山間地域・島しょ部連携特別講座での受講状況
  - 受講生19人中、13人が2年生。
- ③ 中山間地域・島しょ部連携インターンシップの受講状況
  - インターンシップ参加予定30人中、15人が2年生。
- ④ その他
  - 2年生の一部がコース選択に当たって自主的に研究室を訪問。



- ・(地域課題だけでなく生物生産学全体において)問題意識と修学意欲が向上している。
- ・学習や研究にかかる自主性が向上している。

# 「地域志向型教育」に向けた今後の展開と課題

## ① フィールドワーク特別演習への誘導

- 26年度：受講生5人→27年度：受講生10人を目標に

## ② 地域との協働による学生の自主活動への誘導

- 26年度：大長櫓祭り、世羅高×広大コラボワークショップ
- 27年度(予定)：大長櫓祭り、井仁地区みまもり企画、大崎上島町都市農村交流、三次市夢ランド布野×コラボアイス開発

## ③ 卒業論文における地域志向型テーマの設定

- 26年度：22テーマ→27年度：前年度以上を目標に

## ④ その他

- ホーム・カミング・デイや学部公開など大学行事のなかに地域とのコラボ企画を位置づけ。
- 地域・地方行政の企画に学生・教員が積極的に参加。

基本は「地域と大学の双方が  
関係性をより深めながらメ  
リットを共有」を軸に展開